〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
文学と人間	２単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス･アワー〕	〔授業の方法〕
横手 一彦	時間:講義開始後に指示 場所:616 研究室	講義

〔科目の概要〕

この講義は、次の二つを軸に展開する。
一つは、日本近代文学を概観し、その特徴を見出すことである。作品を読み直し、時代との関わりや情知の形成過程を考え、その動態を分析する。その過程から、現代に関わる素因を見出し、考察することを目的とする。
個人の構想力(想像力)は、近代化(欧米化)の過程に随伴し、そこに範を置きながらも、多様な人間、様々な思考、錯綜した行動を描いた。
それらは、必ずしも道徳的な尺度や倫理的な基準に拠らず、むしろ、そこからこぼれ落ちる要因に関心を向けた。明治という時代の特異性や、明治という時代に生きた作家夏目漱石を、主な考察対象とする。
もう一つは、北東北の地域性を視野に入れ、個別の文学作品や映像作品を考察することを目的とする。
新田次郎『八甲田山死の彷徨』と映画「八甲田山」と八甲田連峰、水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島、松本清張『砂の器』と映画「砂の器」（――必見に値する映画作品）と津軽半島などのテーマを設定する。
また、太宰治『津軽』を部分的に取り上げたい(あるいは津軽三味線の仁太坊)。地に根差し、北東北の現実に生きた人間の記録を、異なった表現形式を組み合わせ、連続的に考察する。
ことばによる理解と表現。また、映像による理解と表現。それらが重複する領域を焦点化し、いまの私たちが立つ地点の再考に及びたい。

〔｢授業科目群｣･他の科目との関連付け〕･〔なぜ、学ぶ必要があるか･学んだことが、何に結びつくか〕

私たちは、学び、考える主体としてある。行動し、時には個人的な、社会的な批判を受ける。あるいは、評価される。現代では、その主体性という考えを否定する見方もある。
しかし〈自分〉が基点であり、〈自分〉を起点とする在り方への考察であることに変わりない。その要は、ことばによる「理解」と「表現」である。その意味を考え、記述するという実践をおこなう(記述的科学と方法定位的科学の区分)。私たちが立っている、いまという時空間を考え直すため、二〇二三年、二〇二四年の激変(？)を視野に入れ、近代化という過程を再検討する。そして、新たな全体像を、個の側から再構想することを試みる。
その未達と到達、形式の交差と離反などを、文字表現の分析を通じ、その一部であるが、読み解く。文字は、その生成時から、全く人間的なものであり、そこに特定の関係性が自ずと生み出された。
〈自分〉の在り方は、生きている〈自分〉の現実に関わる。そこに派生する疑問を、個別作品を分析しながら、教場で考えたい。
そのような課題設定は、他科目を学ぶ〈自分〉の在り方や関わり方というものに自ずと広がると考える。

※時間割表に、同一科目名「文学と人間」が二つ配置されている。より適切な受講者数で、教室での個々の応答を大切にしたいという主意による。同一科目名の二つを受講することはできない。時間割を勘案し、各自の判断で、どちらかの時間帯を選択する。

〔科目の到達目標(最終目標･中間目標)〕

中間目標：
この講義は、教養教育科目の一つである。文学作品を紹介し、作品本文を分析し、書かれた内容を理解し、解釈する。これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶ〉パタンに触れ、幾つかの要点を習得することで、〈自分〉が〈自分〉を考え、〈自分〉が〈自分〉のことばで、「理解」し「表現」する大切さに及ぶ。

最終目標：
「文学」は、人文科学に属する学問領域である。特定の課題を言語化する能力、言語化による「理解」と「表現」、記述的科学の実践、それらの習得を主目的とする。その獲得を最終目標とする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

開講７年目の科目である。学生の積極的な提案に、真摯に向き合いたい。
しかし、要望の総てに応えることは出来ないし、要望の総てが〈学ぶ〉ということに根拠を持つとも限らない。学生の不満や批判があろうとも、〈学ぶ〉ことに根拠を持たないと思われる要望には応じられない。その多くは、教壇に立つ側の判断による。時には、受講生との意見交換が必要になる場合もあると考える。
昨年と同様に、対話型の講義を基本に進行する。受講生の関心を勘案し、また要望により、昨年度より視覚教材を多く取り入れた授業計画とした。適宜、プリントを配布し、概要や要点などを明示する。

〔教科書〕

特に指定しない。

〔指定図書〕

特定の書籍を指定しない。講義中に配布した資料や文書の通読を求める。また、必要な文献等を紹介する。

〔参考書〕

講義の進展に伴い、適書を指示する。また、参考文献を紹介する。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

日本の近代化の諸相を、近代文学の作品が、どのような行為として描いたか。この変化の概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。
ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、現在の様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

講義への積極的な関わりなど(20%)、小テストや小レポート(20%)、学期末テスト（60%)。
A=100-80 点　B=79-70 点　C=69-60 点　D=59-50 点　F=49-0 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この講義は、いくつかの段階を踏まえて進行する。このため、一側面において、雑多との思いを抱くかもしれない。
講義の進行は、はじめに、前回の学生コメント紹介、復習、作品紹介、分析、考察、思考、要点確認、質問、それらの項目立てに大凡沿ったものである。
関連する事柄を事前学習し、挙手や質問シートに書き込むなど、積極的な姿勢で、講義内容に取り組むことを望む。

〔実務経歴〕

なし。

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：　講義への導入　「文学」を学ぶということ 内　容：始めに――自己紹介・受講要件の確認・受講態度等・講義の概略・学生の要望 ：講義の導入１　(例. ことばの基本形)　西行 ：講義の導入２　身近なところから考える(例. 八甲田山)

	教科書・指定図書：　都度、適書を紹介し、講義の進行に合わせて参考資料などを配布する。
第２回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の近代文学 内　容：坪内逍遙「小説神髄」の位置　近世からの転倒(あるいは進展)　初期理論の確立 　　　：時代区分　類型化　理解するということ 教科書・指定図書：　同上
第３回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代１ 内　容：西洋の受容――英文学者夏目金之助と作家夏目漱石　公私に生きる　〈私〉に生きる 教科書・指定図書：　同上
第４回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代２ 内　容：西洋の受容――例. 夏目漱石「坊ちゃん」　学校教育制度　立志　制度と個　人を育てる 教科書・指定図書：　同上
第５回	テーマ（何を学ぶか）：　明治期の折り返し・明治という時代３ 内　容：講義の前半に立ち返る／講義の到達点と未達点／講義中に小レポート作成 　　　　展開の諸相――例. 森鴎外「舞姫」　新帰朝者　外側と内側の相克　学ぶ力　〈公〉に生きる 教科書・指定図書：　同上
第６回	テーマ（何を学ぶか）：　明治という時代４ 内　容：展開の諸相――例. 樋口一葉.　与謝野晶子.　山川登美子.　女性の表現者たち 　　　　女性として.　≦　人として.　生き方と生活と表現活動 教科書・指定図書：　同上
第７回	テーマ（何を学ぶか）：　地域性から考える――太宰治　/　仁太坊(津軽三味線) 内　容：地域との関わり 　　　　例. 太宰治『津軽』　太宰治と津軽　津島修治　/　仁太坊(津軽三味線) 教科書・指定図書：　同上
第８回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品　1 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　　例えば――水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島　その１ 教科書・指定図書：　同上
第９回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品　2 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：例. 水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島　その２ 教科書・指定図書：　同上
第10回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品　3 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島　その１

	教科書・指定図書：　同上
第11回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 4 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島　その2 教科書・指定図書：　同上
第12回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 5 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：例. 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の成立　映画「八甲田山」製作　その1 教科書・指定図書：　同上
第13回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 6 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の分析　その2 　　　：例. 映画「八甲田山」と脚本家橋本忍 教科書・指定図書：　同上
第14回	テーマ（何を学ぶか）：　地域から考える――北東北の文学作品と映像作品 7 内　容：地域との関わり――北東北の地域性　北東北の地に生きる　北東北の生活を描く 　　　：新田次郎『八甲田山 死の彷徨』まとめ　その3 　　　：例. 映画「八甲田山」という映像作品 教科書・指定図書：　同上
第15回	テーマ（何を学ぶか）：　まとめ 内　容：通史と通論という思考　原則＝話す. 聞く. 読む. 書く.　文字化するという行為（言語化） 　　　ことばによる「理解」　ことばによる「表現」　人間的な行為（人である・人になる・人となる） 教科書・指定図書：　同上
試 験	期末試験実施（受講者数やその関心の在り方などから、期末レポート提出とすることもある・教場で指示）。 講義を15回実施する前提で、授業計画を作成した。社会的な状況によっては、他科目の場合と同じく、12回の講義となることもある。その場合、課題レポートの提出を求めたりするなど、別途の形で不足を補う。